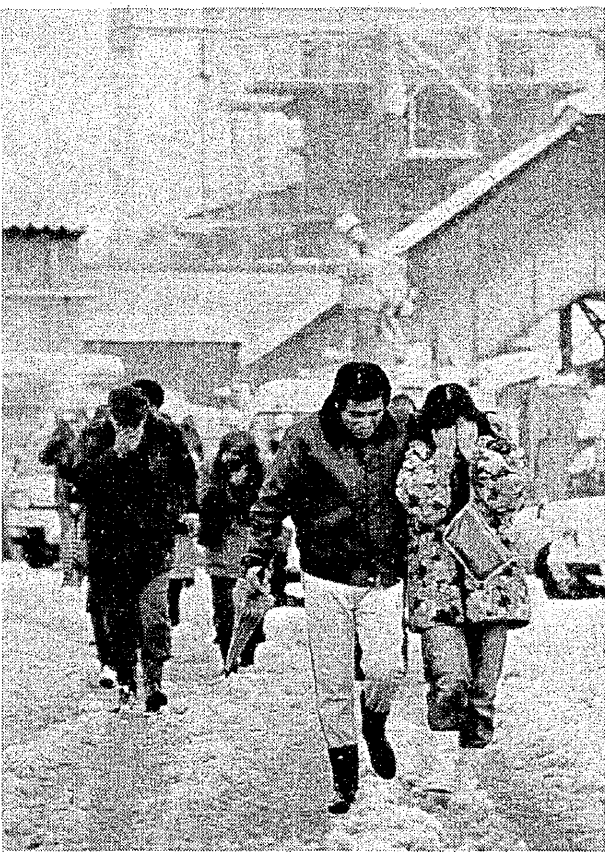


# 有明鉱の災害に思う

1 分会 森のぼる

## いま、なお「命」の危機 組織の枠のりこえ共闘を



19日の朝、悲しみにうちひしがれながら坑口をあとにする家族。後方は有明鉱のやぐら。

働く者の健康や、命よりも一塊の石炭を大切に三井資本が、またしてもとり返しのつかぬ大災害を引き起こした。

昭和三十八年の三川炭炭塵爆発で四百五十八人を殺し、それ以降も幾多の坑内火災や自然発火、落盤、運搬などの災害で百三十人余りの人命を奪い続けている三井資本の暴挙を、マスコミ関係者も知らぬことばあるまい。

三川大災害から二十年余、「二度と起さない」と公言した三井資本が、明日起しても不思議じゃない大災害にいつなる不安要素が、いたるところに放置されたままになっている現実を是非見てもう一度と思おう。



雪の18日深夜。有明鉱事務所玄関横で被災者の搬出を待つ救急車。

昭和三十八年の三川炭炭塵爆発で四百五十八人を殺し、それ以降も幾多の坑内火災や自然発火、落盤、運搬などの災害で百三十人余りの人命を奪い続けている三井資本の暴挙を、マスコミ関係者も知らぬことばあるまい。

三井は、二十六日の生産再開のねらいを断念し、二十八日まで保れた八十三柱の遺族の悲しみ、十六人のCO中毒被災者の苦しみを、思うと表現する言葉もないが、災害の責任は明らかに三井資本にある。三川災害と同じような取り扱いを許してはならない。八十三人が命を代償にして残してくれた尊い教訓を生かす道は「二度と起きぬ」ことを会社に名実ともに確約させる以外にない。

### 発言

一月十八日、三井三池有明鉱で発生した坑内火災は、死者八十三人、CO患者十六人を出す戦後炭鉱災害史上四番目という大惨事となった。この三井の大罪は断じて許せない。

各切羽からの石炭を地上に運び出す揚炭坑道となっており、一部の入気も兼ねていた。いわば基幹坑道なのである。

三井は、二十六日の生産再開のねらいを断念し、二十八日まで保れた八十三柱の遺族の悲しみ、十六人のCO中毒被災者の苦しみを、思うと表現する言葉もないが、災害の責任は明らかに三井資本にある。三川災害と同じような取り扱いを許してはならない。八十三人が命を代償にして残してくれた尊い教訓を生かす道は「二度と起きぬ」ことを会社に名実ともに確約させる以外にない。

有明鉱大災害についての「意見や感想をお寄せください。お待ちします。」

## 「命と生活」を守る 真の労働運動を高らかに

一月十八日、三井三池有明鉱で発生した坑内火災は、死者八十三人、CO患者十六人を出す戦後炭鉱災害史上四番目という大惨事となった。この三井の大罪は断じて許せない。

各切羽からの石炭を地上に運び出す揚炭坑道となっており、一部の入気も兼ねていた。いわば基幹坑道なのである。

三井は、二十六日の生産再開のねらいを断念し、二十八日まで保れた八十三柱の遺族の悲しみ、十六人のCO中毒被災者の苦しみを、思うと表現する言葉もないが、災害の責任は明らかに三井資本にある。三川災害と同じような取り扱いを許してはならない。八十三人が命を代償にして残してくれた尊い教訓を生かす道は「二度と起きぬ」ことを会社に名実ともに確約させる以外にない。

有明鉱大災害についての「意見や感想をお寄せください。お待ちします。」



仮に設けられた天領病院遺体安置所へ運ばれる遺体。(18日深夜)

編集部長 杉本一男